

第2回美祿市総合計画審議会基本計画部会 議事録

日時：令和元年8月22日（木）18：30～

会場：美祿市役所 第1・2会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	部会長	美祿市男女共同参画審議会	コバヤシ ノリコ 小林 法子	
2	副部会長	美祿市議会	タカギ ノリオ 高木 法生	
3		美祿市議会	エビスヤ アキヒロ 戎屋 昭彦	
4		公募	イノウエ トシオ 井上 敏雄	
5		公募	カジオカ ヒデオシ 梶岡 秀吉	欠席
6		国立大学法人山口大学	タナカ カズヒロ 田中 和広	欠席
7		成進高等学校	ノハラ マサノリ 野原 政典	
8		山口県議会	モリナカ カツヒロ 森中 克彦	欠席
9		山口県宇部県民局	イソムラ ショウジ 磯村 昭二	
10		美祿市内郵便局	カトウ ミチコ 加藤 美智子	欠席
11		美祿市教育委員会	カネコ アケミ 金子 明美	欠席
12		美祿市子ども・子育て会議	クラナガ ケンゾウ 倉永 健造	
13		美祿郡医師会	サカイ ヒサノリ 坂井 久憲	欠席
14		西京銀行	スエオカ タカオ 末岡 貴夫	
15		美祿市社会福祉協議会	ハネ カズタカ 羽根 一孝	
16		美祿市医師会	ハラダ キクオ 原田 菊夫	
17		美祿市体育協会	マセ クニオ 真瀬 邦夫	欠席
18		美祿市小中学校PTA連合会	マツダ タツノブ 松田 龍信	欠席

1 開会

～資料の確認～

2 部会長あいさつ

～小林部会長ごあいさつ～

あまり長々としないよう、効率的に議事が進むようご協力お願いする。

3 議事

(1) 第二次美祢市総合計画基本計画の専門部会（案）について

- ア 基本目標1：「魅力の創出・交流」の拡大の施策について
- イ 基本目標2：強みを活かした「産業の振興」の施策について
- ウ 基本目標3：市の宝となる「ひとの育成」の施策について
- エ 基本目標4：安全・安心な「まちづくり」の施策について
- オ 基本目標5：「行財政運営」の強化の施策について

事務局より：基本目標1について説明

部会長：基本目標1についてご意見、ご質問はあるか。挙手にてご発言いただけたらと思う。

前回出てきた意見で修正された部分もあるが、いかがか。

市民会館の利用者数が前回より落ちたというところは地域のコミュニティセンターなどの利用が増えたからとあったが、この数字は落とさないといけないものなのか。

事務局：どのあたりの数字を見込むか難しいが、担当課としては現状維持を目標にということなのだろうと思う。上げた数字を書くことは出来るが、現実をみて減っていくだろうというところを現状以下には落とさないというのが思いだろうと思う。

部会長：前回の46,000人も根拠があったのだろう。

事務局：前回からの数字の違いに関しては、どの数字をベースにするかだが、市民会館の利用者数の内、施設外利用の数を46,000の方に加えていた関係で、その辺りを精査して表記している。

委員：4P、有料ガイド登録者数からジオガイドの人数では言葉が変わっているが、現状というのははっきりした数字だと思うが、言葉が変わった理由はなにか。

事務局：前回有料ガイドの人数としていたのは有料ガイドを行っているのが、秋芳洞のアテンダントとジオガイドとなっており、それを想定していれていたが、この度積算根拠の確認を担当課にしたところ、秋芳洞のアテンダントは現状17人。目標としても秋芳洞のアテンダント雇用計画の定員マックスが23人。その23人を令和6年と11年に当て込んでいたが、秋芳洞アテンダントとして伸びをカウントすることができない。あくまでも定員を満たすことを目標としており、有料ガイドを増やしていく目的ではないのでふさわしくない。ジオガイドの方は、有料ガイドを増やしていこうという根拠があるため変えさせていただいた。

委員：前回少し話をしたが、観光の振興ということで、秋吉台と三洞についてはものすごく力を入れた内容となっているが、それ以外の観光施設に触れられていないので、総合計画の中では盛り込まないということか。

事務局：基本的に取組の方向についても主な取組についてもできるだけコンパクトに5年間保てる文言でと記載しているが、詳しくは実施計画の方に3年間のローリング計画で載ってくるようになるだろうと思う。秋吉台、秋芳洞以外のということを全く考えていないわけではなく、市全体の振興として捉えている。主な取組でいえば1番、2番、5番、施設の4番も含まれている。決してその他の観光地をないがしろにするわけではない。

委員：総合計画があつて、実施計画があつて実施計画があれば問題はないかと思う。

委員：7 P一番下の目標指標の中のランキングだが、それぞれがどこの場に出しているのか。

事務局：各市町が指標を作る際に使っている指標で、全国の1000自治体をピックアップしてインターネット調査により点数を出してそれによるランキングとなっている。

委員：美祢市がこうなっているが、山口県全体から言うとそれぞれ観光地によってランキングが変わってくるのだろうか。

事務局：県内13市あるが、魅力度は県内1位は萩市、2018年度調査で全国59位、2位が下関市は全国79位、美祢市は13市中11位。情報接触度の県内1位は下関市で全国は67位、2位は山口市で全国は188位、3位は萩市で全国は193位、認知度で県内1位は下関市で全国は61位、2位は山口市で全国は167位、3位は萩市で全国は173位、美祢市は情報接触度も認知度も13市中12位。秋吉台は有名でも美祢市という言葉は知られていない。

委員：弁天池の観光客数とあるが、現状の45,000人になる以前の数値はわかるのか。

事務局：現在手持ち資料がないが、積算根拠として別府弁天池に来られている人数をカウントできないが、養鱒場の人数を基に4～5倍して算出している。この人数も微増していた。

委員：おととい、島根の人と話をしたら美祢市というと青い池があるでしょ。と言われた。

事務局：一般的には別府弁天池だと思う。

委員：9 Pのジオパークのところで、現状と課題で保全管理計画を策定しとあるが、主な取組のあたりに入れてはどうか。この項目自体が基本方針の自然文化の保護と活用という項目なので、博物館が1番が出るのも理解できるが、保全の色を出されて、計画も作りまですよと打ち出すのはどうか。

事務局：いろんな部分において大事な計画があり、統一的に計画名を出していない。8 P秋吉台の保全部分に植生とあり、いま大事にしようとしているが、ここについても計画名は出さないように実施計画で出すように統一している。どうしてもやむを得ない場合を除き統一している。

事務局より：基本目標2について説明

部会長：基本目標2についてご意見、ご質問はあるか。

委員：ミネコレクションに横文字とカタカナとあるので、統一した方がよいのでは。

事務局：修正させていただく。

事務局より：基本目標3について説明

部会長：基本目標3についてご意見、ご質問はあるか。

委員：24 P要保護児童対策地域協議会の活用とあるが、活用というより市が主体となって設置する協議体だと思っている。発達障害以外にも不登校ひきこもりなどいろいろある。その辺りは担当課とも確認をとっていただければと思う。

事務局：意見を踏まえて再度確認させていただく。

副部会長：23 P、相談業務の充実は大変だが、主な取組の保育環境の充実に含まれているのか。環境の充実といえば保護者が相談に行くということも踏まえてあるのか。

事務局：大きく言えば、主な取組の子育て支援環境の充実という中で、子育てに関する不安、悩みを抱えないように支援環境を充実させていくということ、2番の主な取組は保育所

を踏まえた保育サービスを記載している。

副部会長：支援ばかり表に出てきて、不安を抱えた方が本当に多いと思うのでその辺りの充実が大切なことだと思う。

事務局：子育て世代包括支援センターの設置をこの8月に行い、健康増進課の中で対応していくような形となる。今までも相談を受けてないわけではないが、妊婦から子育ての間を踏まえて行っていく、また、いままで空いていた期間のところに7か月の妊婦健診などそのあたりの切れ目が無いように相談を充実させていくことを考えている。

部会長：目標指標で待機児童数は1人から0人となっているが、現実はある。近くにないために入れない、という家庭はある。その実態をどこまで把握されているのか。

事務局：こちらに記載してある数値は年度当初に保育所に児童を割り振った場合待機児童はないことになっている。もちろん近くにとすることは抜きにしての状況。転出入など人の移動の関係で0歳児を預けたいとなると保育所の人員基準があり、年長が入るなら入れるが、年齢が低いと待機児童になるという実態がある。そういった方を無くしていきけるような体制を目指すために0としている。

委員：先ほどの説明の中に子育ての包括支援センターの話があり、妊婦を含むということだったが昨年より市民福祉部の方に要望の働きかけをしていたところ、いま準備は進んでいるとの回答があった。

いま小さい子供なら支援センターで良いが、例えばいままでなら17歳を過ぎた子どもについては児童相談者ではどうにもならない。その辺りは実際に問題が起きて行った時に年齢でダメですとなったことがある。早急にできることを期待する。

先ほどあった障害児、ひきこもりについての複合的な要因による障害課題が出てきている中で、民生委員協議会で引きこもりの実人数を調査してくれというものがきた。これは読んでいくと、実際に訪問をして確認をする調査ではないと書いてある。それは引きこもりの人がいるんじゃないかという質問はできない。家庭から相談に来るようになったらできるがそうでない限り隠したいということもあって難しい。うわさによれば程度しかできない。

委員：25P学校給食等は議会の方でいろんな案が出て、就学児においてはいろんな格差が生じていますとあり、これは10年先に向けて解決していきますとになっていたかと思う。保護者がそれで納得されるのかと、なにかスクールバスなどで対応していきますなど1行でもあったほうが良いのではないか。

事務局：主な取組に関しては、学校給食程の項目立てはしていないが、3番の教育環境の整備充実の中に、学校施設の整備、維持管理、その後の通学支援などを通じていまおっしゃられたやり方は様々あると思うが、スクールバスなのかスクールタクシーなのか金銭的な助成なのか、そのあたりは通学支援などを通じて安全な環境ができるように取組を考えていくというようにしている。

部会長：実施計画の中で入れられるという可能性もあるか。

事務局：実施計画は現状のスクールバス等の取組の内容がある。格差があるというところはまた別の形で記載があるかもしれないが、対応するべきところは対応していく。

部会長：中学生を持つ親としては通学費が大きな課題になっているかと思う。

委員：子ども子育て会議の中で、ある公募委員の父兄意見で、夕方遅くなると停留所から家まで帰るのに暗くて怖い。お母さんも怖いということで、外灯、防犯灯をつけてくれるわけにはいかないと意見があった。民生委員などと話したところ、お母さんは外灯を希望しているが区長さんは防犯灯じゃあやりましたとは言わない。交渉した結果、バスを家の前までつけることでどうかと言われたらしい。そこまでしてもらわなくてもよい

が、外灯が一番よいが、外灯は設置の時は社協の補助もいただけるが、どうしてもあとの電気料金があるので、なかなか踏み出せない。比べると暗い道で溝に落ちてけがをした人もいて、外灯設置になったこともあるが地域的にいろいろ差があるものだと感じた。

事務局より：基本目標4について説明

部会長：基本目標4についてご意見、ご質問はあるか。

副部会長：40P、救急患者の受入数は救急車の出動数に比例するのか。

事務局：病院側で救急患者を受け入れた数字。

副部会長：自分で行って受診することも含まれているということか。

事務局：救急患者という定義を病院に確認してみないと。

委員：美東病院が多いのは、美東秋芳の2週間に1回の当番医をやっており、ここで拾い上げた救急を全部入れているから美東病院が多くなっているのだと思う。美東病院は当番医を肩代わりする分を含めた人数と考えていただいて良いかと。

副部会長：救急車はむやみに出動していることも多い中で5年10年後に増えるのもよろしくないなと思った。ソフト的なことは充実していただかなければいけない。

委員：病院に行った場合に自分で行くと後回しになる。救急車優先。

事務局：ここに書いてあるのは基本的に救急医療を充実するということで、市立の病院として、住民に愛される病院イコール経営の直結するという考えもとで、たらいまわしにならないように、受け入れられるもの受け入れて、地域から信頼される病院を作っていくことの表れだと考えている。

委員：ここに限らず、目標指標を各項目挙げているが、34Pでいうと現状と5年10年後の数値が同じものがあるが。現状維持が目標としているのだと思うが、備考欄にそれを書いたり矢印で上方下方などあるとすごく分かりやすい。

40Pみると、現状から5年後は数値があがっているが、5年から10年後は現状維持、5年間で目標達成するよという考え方になっている。どういう書き方が一般の方が見て違和感を覚えるのか。数字だけのいじりになるが、見ていて全部一緒かと思ってしまう。現状維持が悪いわけではなく見やすくしてほしい。

部会長：民生委員の活動の142日は上限で定められているのか。積算はどこからできてきているのか。

委員：上限はない。

事務局：実績報告の平均値である。今十二分に活動をいただいているところで、365日のうち142日ということであるので、現状の活動を全体で維持できていければというところを目標としている。

委員：一人が1年間に活動する平均日数という読み方か。

部会長：備考欄を利活用することはできるか。数字が独り歩きする可能性もある。

事務局：備考欄はいま活用しきれっていないので、単位欄を作ろうと思っていたが、維持など数値の分かりやすさはなかなか難しい。維持と言葉で書いてある部分もある。その辺りは指標を主な取組に合わせて設けると維持ばかりになるページもできてくる。福祉分野はなかなか難しいところもある。ご期待に添えるかはわからないが見やすい、わかりやすいという部分は考慮する。

委員：新入院患者数等を挙げているが、2022年までに病床数を25%～30%減らすということで、地域で調整会議をしているが、それを組み込んだ数なのか。そうだとしたらこの数にはならないと思うので、ベッド、病床の稼働率にしてもらった方が良いかもしれない。稼働率がいくらかということになれば大なり小なり市立病院も美東病院も地域の調整会議の中でベッド数をどのくらい減らせるということになるので、稼働率を指標にしてもらったほうが、より現状を反映できるかもしれない。おそらく今2025年に向けてそれぞれの病院にどれだけのベッド数なのかという調整をしている。そうすると目標人数ということ自体が意味をもたなくなってくる。

事務局：担当の病院と確認して調整する。

委員：48P、消費生活相談者数が減少しているのは相談に行くことのないような現状を目指しているのか。表面にでない事例もあると思うが。いま嘘電話詐欺について、電話に録音機を付けるような方向になっている。

事務局：録音機の話は何っている。

部会長：消費生活相談者数の数字を上げる意味はあるのか。未然防止からすると相談することは悪いことではない。先ほどは被害に遭うことを少なくするためとのことだが、現実問題そうなのだろうか。未然に防止できれば、相談者数は増えるだろう。

事務局：被害に遭わない地域づくりをすることで相談者数を減らすという目標設定にしている。

部会長：被害者数の方が分かりやすいのでは。

事務局：被害相談数の方が良いかもしれない。

部会長：要は未然防止なので、そういった理解をしてもらえれば良いのだが。

事務局：担当課に別の指標があるのかという確認と被害相談者数とするかなんらかのところで調整させていただく。

事務局より：基本目標5について説明

部会長：基本目標5についてご意見、ご質問はあるか。

59Pの公募委員のいる審議会などは今でも2割くらいしかないのか。法律に基づいて公募委員が採用できないものもあると思うが、市民の声を取り入れるためにはもっと増えるべきではないか。

事務局：法定上仕方ない部分や専門知識を持っている方をお願いしている審議会もある。審議会でも女性の登用率と同様に多く取り入れる部分も難しいところがあるが、その中でも幅広く意見をいただけるよう努力していきたい。

部会長：特に意見がないようなので、今後の予定について伺えるか。

事務局：基本計画部会も総合戦略部会も2回の会議を終えて、9月の後半か10月上旬に全体の審議会を開催させていただき、総括的な意見をいただく予定。基本計画部会の委員には総合戦略の全体はまだご覧いただけていないので、そちらを中心にご意見いただきたい。もう一方で人口ビジョンの事務局案を再度目標人口のご提案をさせていただく。

4 閉会